

「主と共に歩む幸い」

小池 宏明 牧師

イエス様の遺体が墓からなくなったという騒ぎが起きた「ちょうどこの日」に、エルサレムから逃げるように旅立つ二人の弟子がいた。彼らによみがえりの主イエス様がどのように関わって下さったのだろうか。

***弟子たちの悲しみや失望に寄り添うイエス様**

二人の心は悲しみ、傷付いて、暗くなっていた。二人は、エルサレムで起きた「イエス様の十字架の死と墓から遺体が消えたこと」について話し合いながら歩いていた。そんな二人に、よみがえりの主イエス様が近づいて声をかけて下さった。イエス様は、悲しむ者、気落ちする者たちに寄り添い、一緒に人生の旅を歩んで下さり、話を聴いて下さるお方。しかし、この時、二人の目は、さえぎられていて「イエス様だ」と分からなかった。二人の弟子は、イエス様のことを預言者や政治的な解放者として人間的に見ていたので、悲しみと虚しさで心が暗くなっていた。イエス様は、生きておられる主なる神「キリスト」である。私たちの希望と喜び、確信は、よみがえられた真の神、イエス・キリストにある。

***聖書全体から自らを証しするイエス様**

イエス様が、目がさえぎられている二人の弟子に自らを証しした。彼らが、一緒にいる旅人がイエス様だと気付いたのは、宿屋の食卓に着いてイエス様がパンを裂いた時だった。イエス様は、ご自分がよみがえりの主であることを証しするために、二人の目をさえぎっているものを奇蹟的に取り除くことによって教えようとはされなかった。聖書全体を解き明かすことによって、自らがキリストであると証しされた。ところが、二人が、主イエス様だと分かった後すぐに主は見えなくなった。しかし、不思議なことに二人の弟子たちの心に不安や恐れ、悲しみはなくなり、あの悲惨な出来事が起きたエルサレムに、すぐさま立ち帰ったほど元気になった。二人の心は燃えていた。肉眼では、イエス様が見えなくても、二人の心に平安と喜びがあふれていた。心の眼、霊の眼が、よみがえりの主を見続けることができるように、イエス様は、姿を消されたのではないだろうか。

私たちの人生は、主なるイエス・キリストと共に歩む旅路である。しかも、聖書の御ことばを通して、主が共に居てくださる事が分かる。私たちも、聖書の御ことばによって、心燃やされながら歩み続けよう。